
30歳男の鬼ゴッコ ～絶対に負けられない戦いがそこにはある～

馬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

30歳男の鬼ゴツコゝ絶対に負けられない戦いがそこにはあるゝ

【Nコード】

N5045T

【作者名】

馬

【あらすじ】

30歳男性、既婚子供2人、鬼ゴツコをする。
大人のプライドを賭けて・・・

今日もあの恐怖が幕を開ける・・・。

陽が沈み始めた、午後17時。

その沈みゆく太陽とは逆の方向から奴らはやってくる。

一人は、身の丈150cmの少年（小5）、もう一人はその妹（小2）だ。

少年は笑顔を浮かべながら、こう言い放つ。

「今日も鬼ゴッコをやろう!」

妹はそれに合わせるように、まるで口裏を合わせたかのように、私に死の宣告をする。

「今日もおじちゃんが鬼をやって!」

おじちゃん・・・。

私はまだ30だ。

この30年間で愚直に生き抜いてきて、「おじちゃん」と名付けられたのは初めての事だ。

気は若い、しかし体は正直なものだ。

体力はまさに「おじちゃん」。

そんな私に屈託の無い笑顔で鬼役の宣告をするのか・・・。

拒否権は無い。

「よし！わかった！」

私は気を引き締めると同時に靴紐を結び直す。

私には2歳の息子と4歳の娘がいる。

その二人ももちろん参加する。

舞台はマンション及びその駐車場。

広さにして200坪といったところか。

しかし、今日はツイてる。

駐車されてる車が圧倒的に少ない。

これは鬼ゴツコをする上で非常に重要だ。

奴らは鬼より鬼だ。

車が多ければ多い程、小回りを利かす。

拳句の果てには車の下にも入り込む・・・。

これは鬼ゴツコという名の戦争だ。

大人のプライドを賭けて、

絶対に負けられない戦いがそこにはある。

「じゃあ、50数えてね！！」

この50という数字・・・。

意味はあるのだろうか？

そんな疑問を持ちながら、数字を叫ぶ私。

「・・・48、49、50！！」

開戦だ。

捕まえる順番はいつも決まっている。

2歳の息子、4歳の娘、妹、兄。

時折、娘の機嫌を取るかのようには、妹を先に捕まえることもある。問題は兄をどう捕まえるかだ。

ヤツは瞬足を履いた俊足だ。

50M走で8秒を切るらしい。

私も15年前であれば7秒前後で駆け抜けたものだが……。
車の周りで小回りを利かされた場合は長期戦になる。

まずは建物周辺へ追いやる。

そして直線距離の多い所で一気に差を詰める！！

そうすれば……ヤツを仕留める事が可能だ。

私とて馬鹿ではない。

そう容易く毎度逃げ切られてたまるか！

そう考えながらも、長男を確認。

彼には逃げることにすら頭には無く、

足元に纏わり着いていた。

笑顔で捕まってくれる。

長男確保。

4歳の娘も可愛いものだ。

キヤイキヤイ騒ぎながら逃げ回る姿は、お花畑すら想像させる。

そんな春の息吹に包まれながら、

戦場に咲く一輪の花を摘み取ってしまう私。

娘よ……許せ。

長女を確保。

ふう。
準備運動は終わりだ！

「おーにさん、こっちらぁー！！手の鳴るほうへー！！」

つぶ、おちよくるか・・・兄よ。

まあ、首を洗ってまってる！

貴様は最後に捕まえてやるからな！

つと、ここは挑発に乗ってやろうか。
よし。

兄を追いかけながらの妹確保だ！

私は6割程度の力で兄を追い回すこと2、3分。

兄は全力で走り、スタミナの幾らかは消耗しただろう。

兄はやはり、妹の近くへと走っていく。

つぶ・・・「なすりつけ」だな・・・、そう来ると思ってたぞ。

妹も必死で逃げる。

兄は駐車場を走り、妹は建物側へと向かう。

ここだ！！

妹！確保ーーーー！！！！

「おにーちゃん、ずるいー!!」

妹は拗ねた様子で兄に向かって叫んだ。

「へっへーんだ!」

そうだ、妹よ。

これは云わば、ヤツと私の共謀だ。

ヤツは姑息にもスタミナ切れの際には、なすりつけを行う。

それは過去の戦績データが証明している。

私はそれを利用したのだ。

罪もなき哀れな乙女よ、成仏するがよい。

さあ・・・最後の聖戦だ。

ヤツとの一騎打ちだ。

兄は得意の駐車場で、来る決戦に備えて息を整えている。

私も息が切れているが、悟られないように鼻で呼吸を整える・・・

ヤツを視野に入れながら。

それを察してか、ヤツは車の陰に隠れだした。

っふ・・・頭脳戦か・・・臨むところだ!

私も姿を隠すように、身を低くしてヤツに迫っていく・・・。

おそらく、ヤツは車の下に身を隠し、私の足を見ているのだろう。
それを想定しながら近づき、足が見えなくなるタイヤの部分で時折
止まってみせる。

そして私は小石を5・6個拾う。
これをヤツの近くに放りなげて、注意を逸らしたスキに一気に差を
詰める作戦だ。

いや、まてよ……。

ならば靴を脱いで、ワザと靴を見せておいて、逆から一気に詰める
のも良い……。

それを同時にやったらどうだろうか……

うむ……最高だ、今日は頭が冴えている。

二重の罠であれば完璧だ。

そこまで小5のヤツが気づくことはあるまい……。

哀れな小童よ……相手が悪かったな。

駐車場に緊張が走る……。

沈みかけた太陽が車を赤々と照らし、ザワザワと木々が揺れている。

私は息を飲み、タイヤの陰でそっと靴を脱ぐ……。

耳を澄ましてヤツの動向を探る……。

動きは無い。

まだ車の下にいるはずだ……。

ここから3台先の……あのRV車の下。

私はタイヤの陰から靴先をヤツに見えるように、そっと差し出した。
これでヤツにとって俺の居所はここだ。

そして靴の向きはヤツに向かって最短コース。

実の俺は・・・靴下のまま、遠回りして一気に捕まえる！

最短コースに向かって小石を投げて、スタートだ！！

私は小石を放り投げた。

よし！！

いくぞ！！！！

GO！

GO！

銃弾を掻い潜る兵士のように身を屈めながら、突撃を開始した！

「おとーさーん！！ なっちゃん！ ショウちゃん！
！ゴハンよー！！！！」

ああっ！！嫁ええっ！！

終戦の合図があああーーーー！！

「あ、お母さんだー！」

「ちょっと！なんで靴下で走り回ってるの？ お父さん？！」

いや・・・これには深い訳が・・・。

「ゴハンだ！ゴハーン！」

娘、息子は足早に玄関へ向かっていく・・・。

「おじちゃん、またねー！！」

兄妹も・・・。

「その靴下・・・どうするつもり？」

あ・・・いや・・・

「自分で洗ってよ、責任持つて！」

「いや、今脱いだばかりだから・・・そんな・・・」

「そんなの知らないわよ！ 穴開いたらどうするのよー！ もう靴下は自分のお金で買ってよねー！！」

「そんな・・・大げさな・・・」

「嫌なら、小遣いから引いとくからねっ！！！！！！」

鬼
- - - ! ! !

絶対に勝てない戦いがそこにはあった。

その夜、元祖鬼である嫁の肩を揉んでご機嫌をとったのは、言うまでも無い。

（後書き）

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

実話に近い話なのですが、
いかがでしたでしょうか？

表現がへたなんで、ただの日記みたいですが・・・。

よろしければ、感想・ダメ出しなど頂ければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5045t/>

30歳男の鬼ゴッコ ～絶対に負けられない戦いがそこにはある～

2011年10月8日19時21分発行